



小塩

松浦佐用姫

能と和歌

平成二十九年度
大槻能楽堂自主公演能
能の魅力を探るシリーズ



忠度

二月二十七日土

お話

能
松浦佐用姫

中西進

午後二時開演

赤松禎友

二月二十四日土

お話

能
小塩

山折哲雄

午後二時開演

観世清和

三月二十四日土

お話

能
狂言
薩摩守

村井康彦

午後二時開演

善竹忠一郎

能
忠度

上田拓司

<初めてご覧になる方にもわかりやすい解説を、また英文解説もご用意しています>

無形文化遺産
NOH KYOGEN
能楽

大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7

チケット・お問い合わせは TEL.06-6761-8055 <http://www.noh-kyogen.com>

◎主催:公益財団法人大槻能楽堂 ◎後援:大阪府/大阪市/大阪府教育委員会/大阪市教育委員会/公益財団法人関西・大阪21世紀協会



能と和歌

第643回 1月27日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 万葉集に詠まれた佐用姫と狭手彦の
悲恋の物語
中西 進

能 松浦佐用姫 まつらさよひめ

シテ	里女	赤松	禎友
	松浦佐用姫の霊		
ワキ	旅僧	福王	知登
アイ	松浦瀧の者	善竹	忠重
笛		野口	亮
小鼓		久田舜一郎	
大鼓		谷口	正壽
後見		上野	雄三
		大槻	裕一
地謡		大槻	文藏
		齊藤	信隆
		上田	拓司
		浦田	保親
		山本	正人
		武富	康之
		齊藤	信輔
		浦田	親良

肥前国松浦瀧は、万葉の昔、唐土へ渡る恋人・大伴狭手彦との別れを嘆いた松浦佐用姫が、沖行く船に領巾(ひれ)を振りつけ、形見の鏡を抱いて身を投げたという伝説の場所だった。降りしきる雪の中、旅の僧は、渚で釣りをする美しい海士乙女に出逢う。その夜の僧の夢に、狭手彦の衣装に身を包んだ佐用姫が鏡を抱いて現れる――。

廃絶していた本曲を昭和38年に先代宗家観世左近が改訂復曲した後、同58年、大槻文藏が世阿弥自筆本に依拠した形で復曲初演した。技佳く、艶やかな風姿が佐用姫に似合いの赤松禎友、地頭は大槻文藏という好配役である。

第645回 2月24日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 業平が語る二条后との秘めた恋。
伊勢物語を説き明かす
山折 哲雄

休憩15分

能 小塩 おしお

シテ	老人	観世	清和
	在原業平の霊		
ワキ	花見人	福王	茂十郎
ワキツレ	花見人	森本	幸治
ワキツレ	花見人	是川	正彦
アイ	里人	茂山	茂
笛		藤田六郎	兵衛
小鼓		成田	達志
大鼓		守家	由訓
太鼓		三島元太郎	
後見		大江又三郎	
		赤松	禎友
		上野	雄三
地謡		大槻	文藏
		上田	貴弘
		上田	拓司
		吉井	基晴
		寺澤	幸祐
		武富	康之
		坂口	貴信
		大槻	裕一

洛西・大原野へ花見に出かけた一行が、小塩山で出逢ったのは、桜の枝を肩に担げた風流な木こりの老人だった。昔、二条后が大原野神社に詣でた折のことを詳しく物語る老人は、自らの正体を在原業平とほのめかすと、紅に染まる夕霞の中に陽炎のように消えてしまった。その夜、花見車に乗った業平が現れて、月明かりの花蔭で、二条后との秘められた恋の想い出に浸りつつ、舞の袖を翻す――。

ワキに十六世宗家福王茂十郎、地頭に大槻文藏(人間国宝)、太鼓に三島元太郎(人間国宝)という豪華な配役で、二十六世宗家観世清和の格調高い芸を堪能したい。

第646回 3月24日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 名歌を詠む平家の武将忠度。
しかし朝敵ゆえに千載集には歌人不知と!
村井 康彦

狂言 薩摩守 さつまのかみ

シテ	旅の僧	善竹	忠一郎
アド	茶屋	善竹	隆司
アド	船頭	茂山	忠三郎
後見		上吉川	徹

無銭飲食をした僧がほんとうに無一文だったと知った茶屋の亭主は、かえって同情して、秀句(しゅうく=洒落)を使って渡し舟にタダ乗りできる知恵を授ける――。

無賃乗車のことを平忠度の役職にかけて「薩摩守」などと言った。舟の作り物は出さずに、船頭の棒と演技だけで表現するのも見どころ。平成30年に祖父の名跡・彌五郎を襲名して二世となる善竹忠一郎と長男・隆司、同29年に五世を襲名したばかりの茂山忠三郎の共演が楽しみだ。

休憩15分

能 忠度 ただのり

シテ	老人	上田	拓司
	平忠度の亡霊		
ワキ	旅僧	福王	知登
ワキツレ	従僧	喜多	雅人
ワキツレ	従僧	中村	宜成
アイ	里人	善竹	隆平
笛		光田	洋一
小鼓		林	吉兵衛
大鼓		辻	芳昭
後見		大槻	文藏
		浦田	保親
地謡		上田	貴弘
		齊藤	信隆
		上野	雄三
		山本	博通
		山本	正人
		生一	知哉
		齊藤	信輔
		水田	雄悟

須磨の浦の山蔭にひっそりと咲く若木の桜。それが平忠度の墓標だった。都落ちの折、忠度が命を賭して師の藤原俊成に託した歌は、『千載集』に入れられたが、朝敵となったゆえに「よみ人知らず」と記された。平家滅亡の後、もとは俊成に仕えていた旅の僧が、須磨の浦を訪れる。忠度の菩提を弔いつつ、若木の桜の下で旅寝する僧の夢に忠度の亡霊が現れて、歌人としての妄執を訴える――。

世阿弥が自作の能の中でも上位に位置づけた名作。美しい修羅能の魅力、姿佳し謡佳しの上田拓司のシテに、兄で上田家当主・貴弘の地頭に存分に味わいたい。

文・石淵文恵

入場料金のご案内 ※入場券は各公演の2ヶ月前の同日付から発売

自由席 ●前売：一般 5,400円・学生 2,700円
座席指定可 ●当日：一般 5,900円・学生 3,100円

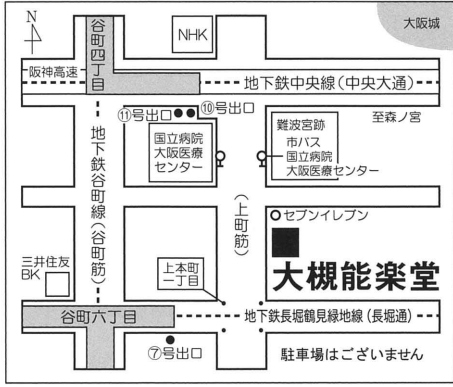
ワンコインでマイシート 500円
追加料金で自由席を座席指定にアップグレード
U-25 25歳以下(U-25)当日立ち見券 800円

※自由席券・当日券でご入場の場合は、立ち見でののご案内となる場合がございます。ご了承ください。※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

入場券発売所

大槻能楽堂事務局・大槻能楽堂ホームページ

ローソンチケット
TEL 0570-084-005
URL l-tike.com
Lコード:56490



交通 ○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーター有り)
又は谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有り)
○市バス「国立病院 大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車。 ※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車。